

※6/10の発行日が本日にずれ込みました。疲れと風邪をこじらせ、ダウンしていました。

※舞台監督補助の方は、6/20よりの練習会から、具体的な仕事が始まります。参加のご都合をお知らせください。

6 / 1より、指定券の前売りが始まりました。ご出演者、役員の皆様でチケットを確保しておきたい、特定の場所を買い求めたいとお考えの皆さんは、事務局までお電話ください。

過日、魔笛ガラの記録CDをニューヨーク在住の音楽愛好家「肥和野佳子さん」に送ったところ、次の様な感想が寄せられました。※肥和野佳さんは、「倉文協だより」にニューヨーク通信を7年以上にわたって連載している方です。メットやカーネギーホールの常連として、音楽コラムも書いています。(東大法学部大学院から世界の四大会計事務所の一角をなすKPMGを経て現在フリーとして活躍中。NY在住)

感想：

CD1

トラック2 タミーノ、Zu Hilfe うまい。ダーメ、Stirb, Ungeheur! durch unsre Macht! すばらしい。特にソプラノの佐々木まゆみさんの声がきれいに響いてる。

ダーメの歌はタミーノを見つけて歌う所も入った方がよかったかな? 終わり方が物足りなかった。

トラック3 パパゲーノ Der Vogelfanger bin ich ja いいですね。ドイツ語うまいですね。

トラック4 タミーノ、Dies Bildnis ist bezaubernd schon パミーナの写真をみて歌うアリア、きれい。

トラック5 パパゲーノ、口にチャック、Hnhhm, タミーノとダーメとパパゲーノ。いいですね。

ダーメ、とてもきれいなんだけど、3重唱のバランスがよくないですね。それはダーメが出てくる所、いつもそう。

トラック6 モノスタスとパミーナとパパゲーノ。パミーナとてもうまい、さすが。

トラック7 パミーナとパパゲーノのデュエット、Bei Mannern, welche 特にパミーナの声がよく響いている。清らかな声。

トラック8 ザラストロとパミーナ。 タミーノの長いアリア、うまい。パミーナとパパゲーノが加わる。パミーナ、うまい。

CD2

トラック2 ザラストロ、O Isis und Osiris よいけど超低音が苦しう。もっと余裕がほしいところ。

トラック3 ダーメ、wie? wie? wie? きれい。タミーノとパパゲーノ、いい感じ。うまい。

トラック4 モノスタス、Allesfuht まあまあ。

トラック5 夜の女王のアリア、Der Holle Rache kocht in meniem Herzen 声がキンキンしてる。超高音の所がほんの少し上がりきってない所が。ちゃんと上手に歌っているけど、目を見張るものが欲しい。

トラック6 ザラストロ、In diesen heiligen Hallen とてもうまい。いつ聴いても渡邊寛智さんのこの歌、とても気持ちいいですね。

トラック7 クナーベ、これは良くない。そもそもクナーベ(童子)は本来ボーイソプラノがやるべき役。清らかでストレートな声の人が良い。それなのに、あのクナーベを聞いていると、中年のおばさんが歌っている姿が目につく。配役ミスと思う。

【ディレクターの感想】クナーベ役についての感想ですが、私は次のように思っています。クナーベは子供役として書かれていますが、音楽的には子供の音楽ではありません。モーツァルトは完全に大人の音楽として書いています。ですから、時として誘惑したり、行動を否定したり、女王の立場になったり、タミーノの支援者になったり、パミーノべったりになったりと、子どもではない大人の処世術を持っています。単に可愛らしいだけのコミカルな役ではなく、その時代に生きた、命ある存在としてクナーベを登場させています。そんな意味で、今回はおばさんのクナーベ像を作ろうと言う意図もあります。

トラック8 パミーナ、Ach ich fuhts 寺内智子さん、いつものようにとても音域が広いですね。音程がしっかりとって、ほどよいビブラートとストレートで伸びのある声もきれい。とてもうまい。

トラック9 パミーナ、タミーノ、ザラストロ、3人ともうまくて、いい感じ。

パミーナ、きれい。 最後の方のパミーナとタミーノのデュエット、美しい。

トラック11 パミーナ、タミーノのデュエット、Wir wandelten durch Feuergluten きれい。

トラック12 パパゲーノ、Papagena! Papagena! いいですね。うまい。

トラック13 パパゲーノ、パパゲーナのPa Pa Pa、いい感じですね。楽しい。Nurstile, stile, stile! の場面もよかった。

最後の合唱 Heil sei euch Geweihten! ももりあがって荘厳でいい感じ。

秋の本番のオペラが楽しみですね。あとは舞台演出ですね。このCDを聞いていたら、私もまた歌いたくなりました。ここ数年、バイオリンのレッスンで手いっぱい、歌はここ数年やってなかったので恋しい感じ。まだわからないけど、私、その頃日本帰省して11月15日なら倉吉に行けるかも？是非、是非、見たいです！

とのことでした。

□今後のコレペティ練習会「6/27と28の2日間」の内、6/28は当初予定に入っていませんでしたので、参加可能かどうかの状況をお知らせください。田島亘祥氏のレッスンを受けてから、松岡レッスンに臨んでほしいとの要請があります。都合の悪い方のみお知らせください。ゲスト歌手の方について、参加の有無をお知らせください。

□アザレアのまち音楽祭のHPに、あいさつのPart2が掲載されましたので、ご紹介します。

ごあいさつ Part. 2

進化する演奏家たち

今年のアザレアのまち音楽祭は、33年間の歴史の中で、オープニングコンサートに最も多くの聴衆を集め、それらの皆さんに真摯に聴いていただき、音楽の素晴らしさを堪能していただけたようです。なおかつ、聴衆の皆さんから寄せられた賞賛の嵐を体験することになり、主催者としてこれほど嬉しいことはありませんでした。ありがたいことです。

普段のオープニングは、アザレア室内オーケストラの演奏が中心ですが、今回のように、他の組織と協働するコンサートはこれまで再三体験しています。特に米子第九合唱団とのモーツァルトやフォーレのレクイエム、そして昨年のロシーニのスタバトマーテルの大成功を基に、今回の魔笛ガラが受け継がれたものと喜んでおります。今回の魔笛ガラは、この秋に開催されるとりアートオペラ公演のプレイベントであり、その中心となった鳥取オペラ協会のスキル進化の賜物だと感じています。特に、鳥取県には存在しなかった素晴らしいバス歌手(琴浦町在住)の登場には、聴衆を驚嘆させるものとなりました。そして何よりも鳥取オペラ協会のソリストたちのスキルアップは著しく、夜の女王に挑戦したソプラノの、高音域で装飾的にも技巧的にも天性の資質が必要だと言われたアリアを、正確なピッチで歌いきった力量が、聴衆に大きくアピールしました。ゲスト歌手として参加いただいた二人のテノール歌手の力強い歌唱力には圧倒されるものがあり、秋の本公演を成功させるに必要な大きな原動力であることを再確認いたしました。

私たち「アザレアのまち音楽祭」は、地域に在住する音楽家の演奏レベルと、その質と活力、様式の多様性、レパートリーの幅の広さを担保する演奏家を地域に遍在させることが大きな目標です。その目標は、この33年間と言う長いスパンの間で、かなり培われてきたと思います。その音楽文化の醸成に最も大きく貢献したのは、2004年の国民文化祭の開催であり、その成果を一過性のものにしないうちに立ち上げた県民芸術文化祭であり、芸術文化団体育成の究極は、県文化団体連合会組織の助成金システムであると思います。この仕組みは、片山県政から引き継がれ、更なる拡充を図る平井県政の優れた文化行政の賜物だと肝に銘じています。

このように進化する音楽祭環境を長年にわたって作り上げることが出来たのは、芸術に忠実で寛大な資金提供を続けてくださったスポンサーや協賛の皆様です。そしてどこまでも進化するオーケストラ指導者と参集していただいたプレイヤーの皆様です。それを、献身的に、スタッフとして、アートマネジメントして頂き、達成できたものと感謝申し上げます。音楽祭は、始まったばかりですが、どうぞ、アザレアのまち音楽祭を、お楽しみください。

□アザレアのまち音楽祭は終盤を迎えています。バスの渡邊寛智氏のソロコンサートが**6/14(日)14:00**～倉吉交流プラザ視聴覚ホールにて開催されます。時間のある方は、ご来場をお願いします。

とりアート魔笛公演総合プロデューサー

計羽孝之(携帯090-1351-7574)mail:figarofigaro@do4.enjoy.ne.jp

とりアートオペラ公演事務局 682-0817 倉吉市住吉町77-1 Tel.0858-23-6095